

# 令和4年度事業計画

令和4年3月25日

公益財団法人高知勤労者福祉サービスセンター

## 令和4年度事業計画について

クンペル高知は、昭和47年12月に「高知市勤労者互助会」としてスタートした。

昭和53年7月に制度一新により「新生 高知市勤労者互助会」として再スタートし、平成30年7月には再スタート後40周年を迎えた。この間、平成6年に鏡村・土佐山村を圏域に加えるとともに法人化を図り、平成10年に南国市が加わり、平成24年には公益法人化を図った。

令和2年度には定款の変更等により加入対象の拡大を図り、令和2年10月に高知市会計年度任用職員等1,175名が新たに加入するなど、会員数は大きく伸びたものの、高齢化や後継者不足による事業所の廃止、新型コロナウイルス感染拡大や人手不足等による雇用縮小などにより、加入事業所は減少し、会員数も減少傾向にある。

クンペル高知は、令和2年度から3年度にかけて発生した余剰金を原資に、まずは、本年度から2年間にわたって、全国的なネットワークを持つ民間の福利厚生サービス(ベネフィット・ワン)と連携し、キャッシュレス決済やチケットのコンビニ発券等会員の利便性の向上を図ると共に会員拡大に努めます。新たな事業開始の告知を会報誌4月号で実施し、会報誌6月号発送時、利用方法詳細のチラシ同封準備を進めており、導入後も適宜、利用案内を継続していく。

また、コロナ禍ではキャッシュレス決済やテレワーク、ZOOMによる会議など、社会の流れも大きく変化しており、クンペル高知もそうした社会経済情勢に対応していく必要がある。

### 1 会員の拡大

全国的な民間福利厚生サービスを導入する事により、メニューの拡大充実や近くのコンビニでのチケット発券等に係る利便性の向上により、周知広報のあり方や既存事業の内容についても見直しを行い、積極的に令和4・5年度にかけて会員拡大を行う体制を構築していきます。

また、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、全国的にも事業所の退会傾向が続いており、クンペル高知も今しばらくは厳しい状況下に置かれるものと考えているが、若年層の会員拡大にも繋がるホームページやSNSの活用など、今の時代にマッチした手法を取り入れていく。

また、先駆的な取り組みを行っている他のセンターの取組状況も参考にしながら、加入促進体制のあり方について、ダイレクトメールなどICTの利活用も視野に入れながら検討していく。

### 2 福利厚生サービス等の充実

クンペル高知は、慶弔共済給付金や各種助成金事業を柱として、コンサートやシネマ、ランチ・ディナーなど多彩な事業を会報誌に掲載し、また、協力事業所と連携しながら様々なサービスを会員に提供してきた。

しかしながら、令和2・3年度はコロナ禍という、誰もが未経験の厳しい状況にクンペル高知はもちろん協力事業所も置かれ、これまでのようなサービス提供が困難となった。

そのため、映画やコンサートなどの興行関係は大きく縮小され、グルメ関係もテイクアウトにシフトするなど、会員に対するサービスを大きく見直した。

令和4年度については、協力事業所と連携しつつ、テイクアウトの拡大や3密対策を講じたコンサート等の提供、会員に好評であったギフトカードの拡充など、コロナ時代のセンター運営のあり方を模索しながら、会員に対するサービスも充実していく。

### 3 経営状況の改善

#### ○ 事業の見直しについて

令和4年度からは全国的な民間福利厚生サービスを導入する事により、事業の見直しやホームページ・SNS・会報誌をリニューアルする事により、会員の拡大を図る。また、会員拡大の為事業所訪問も実施する。

## <事業計画>

### 1 在職中の生活安定事業

慶弔共済給付金／5年在会記念品(386名)／生活・教育資金貸付／介護サービス利用助成(22名)

#### ○ 在職中の生活安定をめざして

##### (1) 慶弔共済給付事業

一般財団法人全国勤労者福祉・共済振興協会との協定に基づき、各種祝金・見舞金・弔慰金の共済給付事業を推進する。

##### (2) 生活資金・教育資金の貸付事業

四国労働金庫の協力を得て実施しているが、今後も引き続き制度の周知に努める。

##### (3) 5年在会記念品給付事業

センター独自の事業として、令和4年度も5年在会の会員に対し、記念品(防災用品)を贈呈する。

##### (4) 高齢対策支援事業

在宅で介護する会員を支援するため、介護サービス利用助成事業を引き続き推進する。

##### (5) 「こくみん共済」(こくみん共済 coop)、「全福ネット入院あんしん保険、全福ネットあんしん労災」(全福センター)のPRに努める。

## 2 健康維持増進事業

行 事 名		予定人員	備 考
生活習慣病予防検診・人間ドック受診助成		1,660	
プール	市営プール（温水）	500	
	県営プール（温水）	170	
	くろしおアリーナ（温水）	50	
トレーニング	市営トレーニング	280	
	くろしおアリーナトレーニング	170	
	南国市立スポーツセンタートレーニング	100	
入浴券	オーベルジュ土佐山	70	
	ながおか温泉	500	
テニス・ゴルフスクール利用助成		10	
家庭常備薬斡旋		全会員	年2回
夏期プール	市営プール（水）	200	
	県営プール（水）	120	
	くろしおアリーナ（水）	40	

### ○ 健康の維持増進をめざして

#### (1) 生活習慣病予防検診・人間ドック受診助成事業

勤労者にとって大切な健康づくりや健康チェックのために、引き続き生活習慣病予防検診や人間ドックの受診助成を推進する。

#### (2) 健康維持増進のための施設利用助成

「高知市トレーニング施設」「南国市立スポーツセンター・トレーニング室」「県営・市営プール」「各種入浴券」の利用助成を図る。

#### (3) 健康維持増進に係る斡旋事業

平成18年度より開始した「家庭常備薬」の斡旋事業について、引き続き斡旋を行う。

## 3 老後の生活安定事業

老後の生活安定をめざして、「中小企業退職金共済制度」（全福センター）、「ず〜っとあんしん共済」（こくみん共済 coop）の普及・加入促進に努める。

#### 4 自己啓発及び余暇活動事業

行 事 名		予定人員	備 考
新入社員研修		10	4月
NHK 学園受講助成		10	
交流館講座助成		105	
旅行参加助成		45	
映画チケット		1,200	年2回
ランチパスポート		1,200	年4回
図書カードNEXT等		610	
観劇・コンサート・展覧会等		1,350	
夏季プール	セリーズプール	1,000	
ビアガーデン		900	6か所
食事チケット		8,965	
ゴルフ練習場	イーグル荒倉・セリーズ	650	
ボウリング	ボウルかつらしま	28	取扱い終了
ギフト斡旋(ハム等)		全会員	年2回

#### ○ 自己啓発及び余暇活動の充実をめざして

- (1) 「利用割引協定契約施設」が減少傾向にあることから、新規開拓に努めるとともに、その利活用を推進する。また、全国のSC会員の利用推進に取り組む。
- (2) 「図書カードNEXT」や「ジェフグルメカード」、「こども商品券」等の販売助成などを継続するとともに、「スターボックス コーヒーセミナー」の開催等、トレンドを押さえた事業展開を図る。
- (3) ホテル等飲食店で行なう期間限定の季節メニューなどの利用助成を引き続き実施するとともに、コロナの状況を踏まえたテイクアウトメニューの充実など、より魅力的なグルメを会員に提供する。
- (4) 生涯学習奨励との観点から、NHK学園の通信講座、ユーキャン、新入社員研修等の受講助成を行う。
- (5) 文化教養レクリエーション支援事業として、観劇・コンサート・展覧会・映画のチケット等の利用助成を推進する。
- (6) 自己啓発やリフレッシュなど様々なニーズに応えるため、当交流館で実施する自主講座に参加する会員への受講助成を継続する。

#### 5 財産形成に係る事業

##### 住宅資金貸付事業

四国労働金庫の協力を得て実施しており、近年、住宅資金の貸し付けが増加している。今後も、センター会報誌等を通じて周知に努める。

## 6 情報提供事業

・会報誌 ・ガイドブック ・利用割引ガイドブック ・全国協定案内チラシ ・ホームページ

### ○ 情報の提供

- (1) センター会報誌「クンペル高知」を隔月（偶数月）年間6回発行し、会員の福利厚生の向上に役立つ情報を提供する。
- (2) ホームページや広報用動画，SNS等の活用を通じ，SC事業の周知を広く行う。
- (3) 高知県労働福祉協議会やこくみん共済，四国労働金庫などの関係機関と連携を図りながら，生活の安定や健康増進等に資する様々な情報を提供する。
- (4) 全福センターや中・四国ブロック協議会等を通じ，全福会員向けのサービス事業に関する情報を収集し，会員への提供に努める。

## 令和4年度高知市勤労者交流館管理運営事業計画

令和4年度は、勤労者交流館指定管理業務の第4期、5か年の4年目となる。

令和2・3年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響から、貸室及び講座事業ともに厳しい運営を余儀なくされたところであり、令和4年度以降についてもコロナの感染状況がどう推移するか見通せないが、これまで同様にしっかりと感染拡大防止策を講じながら、交流館を運営していく。

### 1 施設の管理運営

交流館の建物や設備の老朽化が年々進んでいることから、ここ数年、大規模改修工事が続いている。令和3年度は大規模な給排水管工事が10月から翌年の1月まで施工された。その間駐車場が8台使用出来なくなると共に、水道使用停止等により、講座・貸館にも多少影響があった。

- (1) 「高知市勤労者交流館管理運営に関する協定書」に基づく善良な管理を実施する。
- (2) 「高知市勤労者交流館管理運営マニュアル」に基づき、利用者に対してきめ細やかなサービスに努める。
- (3) 施設・設備の計画的な修繕に向けて、今後も高知市と協議しながら取り組む。

### 2 貸室及び講座事業の実施

貸室事業については、交流館の老朽化に加えて、利用者の高齢化や固定化傾向が強まっており、使いづらい駐車場がネックとなり、その先行きは楽観できるものではない。

加えて、令和2・3年度同様に「よさこい祭り」が中止となるなどコロナ禍が大きく影響するようであれば、運営はますます厳しくなる。

そのため、令和4年度はWi-Fiルーターの貸出によるネット環境の構築により、利用者の利便性向上を図り、利用者増につなげていく。

講座事業についても、コロナ禍の影響は大きく、一部の講座では定員に達していないが赤字運営で開催してきた。

講座の受講者は固定化傾向が強く、一定のニーズはあるが、フィットネス系と語学系では集まり具合が大きく異なっている。これからは、新規の受講生が、参加し易い講座のあり方も考えながら実施して行きたい。

今後もコロナ禍の影響による受講者の減少傾向が続くようであれば、講座事業の運営はさらに厳しくなる。

いずれにしても、貸室・講座事業の置かれた環境とその厳しい運営状況を踏まえ、交流館の設置目的や存在意義が今の時代にマッチするものかどうか検証し、交流館のあり方を根本から問い直すことが必要であり、高知市と協議する。

### 3 総合労働相談の実施

働き方改革や雇用問題、賃金、年金、労災、パワハラ、セクハラ等さまざまな労働に関する相談窓口として毎週火曜日に開催している。令和4年度も高知市広報「あかるいまち」やセンター会報誌・ホームページ等で周知に努めながら引き続き開催する。

## 令和4年度ファミリーサポートセンター受託事業計画

### 1 こうちファミリーサポートセンターについて

「こうちファミリーサポートセンター」は平成16年7月に開設し、平成16年度末の会員数268名、同年度の活動件数323件であったものが、一時期、会員数は1,300人を超え、活動件数も多い年度は8,000件を超えた。

しかし、令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、1月末現在の会員数は1,221名と低迷し、活動件数は1月末で4,914件と前々年度に戻ってきている。

新型コロナウイルスの終息が見通せない以上、令和4年度は3密対策をしっかりと講じる。また、今年の6月から、クンペル高知が全国的な民間福祉サービスを導入する事により、依頼会員の件数が増えると想定される事から、保育サービス講習会等を開催し、マッチングする援助会員を増やす努力を図っていく。

援助活動の多様化・複雑になっていく中で、可能な限り援助活動ができるように高知市等関係機関と協議しながら利用支援を進めていく。

#### (1) 年間活動予定（概要）

- ・ サブリーダー会：年11回、10名配置予定
- ・ 交流会：会員とその家族を対象に年1回開催予定
- ・ クリスマス会：会員とその家族に加えて一般も対象に年1回開催：毎年多彩なイベントを凝らし、センターのPRも兼ねながら、会員や一般の子育て家庭に好評である。
- ・ 保育サービス講習会：年3回
- ・ フォローアップ講習会：年5回
- ・ ふぁみサポ通信の発行：年2回×2,200部、配布先：会員・保育園・その他関係施設

#### (2) 研修会・交流会出席等の予定

内 容	開催地・視察先
女性労働協会主催 全国アドバイザー講習会・交流会	大阪
女性労働協会主催 リスクマネジメント実践セミナー	WEB 配信
高知県主催 アドバイザー研修会	高知

#### (3) 関係機関との連携

- 保育所や幼稚園との連携
  - ・ ファミリーサポートセンターの事業説明（公立保育園、民営保育園、私立幼稚園）
  - ・ 会報誌「ふぁみサポ通信」を年2回配布
- 子育て支援センターでの援助活動の実施
- 民生委員児童委員協議会での事業説明、民生委員児童委員全員にチラシを配布
- 子育て支援センターやふれあいセンター、ソーレ、オーテピア、高知市こどもの図書館など、行政機関を含む関係機関 約250か所に会報誌を年2回配布



## 2 なんこくファミリーサポートセンターについて

「なんこくファミリーサポートセンター」は平成29年10月に開設し、今年度は5年の節目となる。開設以来、アドバイザーが精力的に子育て関連施設や各団体の会合、イベント等でのPR活動に努めた。その結果、南国市の子育て家庭のファミリーサポートセンターに対する周知度は高まり会員数、活動共に増えてきた。

令和4年度においても、新型コロナウイルス感染防止策を講じながら、引き続きファミリーサポートセンターのPRを積極的に展開し、会員拡大に取り組む。

また、依頼会員はもちろん援助会員にも安心と信頼を感じることでできる援助活動をしっかりと積みあげ、子育て家庭はもちろん、地域に信頼される「なんこくファミリーサポートセンター」をめざす。

### (1) 年間活動予定（概要）

- ・ 全体交流会：会員とその家族を対象に開催
- ・ 援助会員の交流会：援助会員・両方会員の情報交換会開催
- ・ 保育サービス講習会：年2回
- ・ フォローアップ講習会：年3回
- ・ ワークショップ：地域で子育て中の親子を対象に年2回開催
- ・ ふぁみサポ通信の発行：年2回×330部、配布先：会員・保育園・その他関係施設

### (2) 研修会・交流会出席等の予定

内 容	開催地・視察先
女性労働協会主催 全国アドバイザー講習会・交流会	大阪
女性労働協会主催 リスクマネジメント実践セミナー	大阪
高知県主催 アドバイザー研修会	高知

### (3) 関係機関との連携

- 南国市保健福祉センター，南国市福祉事務所，こども相談所等への相談や情報共有
- 保育施設，学童クラブとの連携
- 地域子育て支援センターとの交流（定期的な事業説明・意見交換・交流会参加）
- 南国市社会福祉協議会での事業説明，連携
- 地域のイベント会場にてチラシ配布や会員募集の協力
- 県内外のファミリーサポートセンターとの情報交換
- 居住地以外のファミリーサポートセンターで講習会の受講を調整